

係を見出し、その裏づけを行なった。しかし多くの場合ダーツは一つだけでなく、二つまたは三つのときもあるので、この場合基本的な作図法を用いるには、いかなる方法によるべきかを見出さんとするに於ける。

2. まず設定線上にダーツの中心線が垂直に設けられ、ダーツ形成線が設定線と角 θ_1 及び θ_2 で交る二つのダーツの場合では、各ダーツの外側のダーツ形成線が内側のダーツ形成線に重ねられるものとして、内側のダーツ形成線に、起点より外側のダーツ形成線間の設定線と再現させ、この再現設定線上の両起点間を結べば、両ダーツ中心線間におけるこの直線の部分が求むる新設定線の一部になる。つぎに内側のダーツ形成線上の新設定線と旧設定線間の長さをそれぞれ外側のダーツ形成線上にとり起点間を結べば求むる山形がえられる。

つぎに、ダーツ中心線が斜に設けられる場合については、二つのダーツが共に同じ方向、または相反する方向に傾いていても前例同様の考え方により新設定線が求められる。

3. 三つのダーツの場合については、まず外側の二つのダーツの新設定線を求め、その中に一つのダーツを新に設けたものと考えて取扱えば、三つの場合でも容易に求めることができる。

B-38 ダーツに関する研究 (第3報) ダーツ設定の作図法について(その1)

高知女子大 市川 一夫
○村田 菊子

1. 前報では単一のダーツ設定についての理論的考察を行ない、基本的な作図法を創案し、諸因子量の函数関